

『春をかさねて』(二〇一九年四十五分・劇映画)

宮城県石巻市大川地区出身の佐藤そのみが大学時代に、東日本大震災と大川をテーマに撮影した自主映画『春をかさねて』『あなたの瞳に話せたら』の上映会

令和5年度高等教育機関コンソーシアム和歌山「わかやま学講座」

ある春のための上映会 in 和歌山

～宮城県石巻市大川をめぐる2本立て～

2023.8.11 (金・祝)

13:00開場／13:30開始(15:30頃終了)

<映画上映+監督トーク 予定>

会場:ジストシネマ和歌山 スクリーン5
(和歌山市松江1469-1 ガーデンパーク和歌山内)

入場無料・予約優先

『あなたの瞳に話せたら』(二〇一九年・二十九分・ドキュメンタリー)

この講座は令和5年度高等教育機関コンソーシアム和歌山「わかやま学講座」の採択を受けて「ある春のための上映会」実行委員会が実施しています。



春をかさねて

(2019年/45分/劇映画)

震災から1ヶ月が過ぎた、とある被災地。津波で妹を亡くした今野祐未(14)は、この経験を発信しようと、次から次へと訪れる記者からの取材に応じていく。一方で、同じく妹を亡くした幼馴染・大輪田れい(14)は、東京からやってきたボランティアの大学生へ恋心を抱き、メイクを始める。ある放課後、祐未はそんな彼女への嫌悪感を吐露してしまう。

監督・脚本・編集 佐藤そのみ
撮影 織田知樹 李秋実
出演 齋藤小枝 齋藤桂花 齋藤由佳里
芝原弘 秋山大地 安田弥央

あなたの瞳に話せたら

(2019年/29分/ドキュメンタリー)

東日本大震災で多くの犠牲を出した“石巻市立大川小学校事故”にまつわるドキュメンタリー。撮影は、震災から8年半が過ぎた2019年12月。大川小で友人や家族を亡くした当時の子どもたちは、あれから何を感じ、どのように生きてきたのか。それぞれが故人に宛てた手紙を織り交ぜながら、自身も遺族である「私」が、カメラを持って向き合う。

監督・撮影・編集 佐藤そのみ
東京ドキュメンタリー映画祭2020
短編部門「準グランプリ」観客賞 受賞作

ある春のための上映会 in 和歌山

8月11日(金・祝) 13:30~15:30 開場 / 13:00

会場 ジストシネマ和歌山 (和歌山市松江 1469-1 ガーデンパーク和歌山内)
JR和歌山駅・和歌山大学前駅からバスで15分「土入橋」下車すぐ / 和歌山市駅から北西へ徒歩20分
入場料 無料・予約者優先 (定員88名・自由席)

★ご予約はこちらから……………→

お問合せ先 「ある春のための上映会 in 和歌山」実行委員会 (本部:和歌山大学内)
メール aruharuw@ml.center.wakayama-u.ac.jp
TEL 073-457-8503 (担当:林)



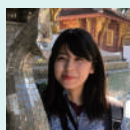
※空席がある場合は当日入場可

お預かりした個人情報、高等教育機関コンソーシアム和歌山の講座実施以外では使用いたしません。

<https://forms.gle/FkFZ2q5KeUPuBfeN8>

上映後トーク 登壇者

※登壇者は都合により変更する場合がございます。



佐藤そのみ
(監督)

1996年、宮城県石巻市出身。幼少期に地元で映画を作ることを志す。2011年の東日本大震災で、石巻市立大川小学校に通っていた二歳下の妹を亡くす。日本大学芸術学部映画学科在学中に、地元で数本の劇映画やドキュメンタリーを自主制作する。現在は東京都内で会社員をしている。



本山貢
(和歌山大学 学長)

1962年生まれ。福岡大学体育学部卒業、同大学院体育学研究科修了。同体育学部助手、同医学部研究生、九州大学教育研究センター非常勤講師などを経て96年4月、和歌山大学教育学部に講師として赴任、翌年助教授、04年4月から教授。その後、教育研究評議員、副学部長、学部長を歴任し、23年4月和歌山大学長に就任。専門分野は健康科学、運動医学。



太田昇
(串本中学校 教諭)

和歌山県串本町出身。2011年当時は和歌山大学の院生で学生団体「Forward」の初代代表を務めた。東日本大震災の被災地支援のため、大学に交渉し、岩手へボランティアバスを走らせた。その後も岩手県田野畑村共同で特産品開発などに取り組み、同年9月に起きた紀伊半島大水害でも被災者支援に尽力した。

「ある春のための上映会」実行委員会は、「和歌山大学むすぼら」と「学生団体 WAKA×YAMA」の大学生を中心とした活動です。

この講座は令和5年高等教育機関コンソーシアム和歌山「わかやま学講座」の採択を受けて「ある春のための上映会」実行委員会が実施しております。